

タイトル	献辞 奥田仁教授 笠嶋修次教授 瀬川修二教授 略 歴・著作目録等
著者	佐藤，信； SATO, Makoto
引用	季刊北海学園大学経済論集，64(4)： i-xiv
発行日	2017-03-31

献 辞

経済学会長 佐 藤 信
経済学部長

北海学園大学経済学部および経済学会は、本年3月に定年退職される奥田仁教授と笠嶋修次教授、瀬川修二教授のご功績をたたえ、これまでに賜ったご指導とご厚誼に対する感謝の気持ちとともに、『経済論集』第64巻第4号を、先生方のご退職記念号として献呈いたします。

奥田先生は、1992年4月に助教授として着任され、以来25年間にわたり、本学の教育・研究の発展のためにご貢献なさいました。先生は学部においては北海道経済論を、大学院においては北海道経済論特殊講義、地域経済論特殊研究Ⅰをご担当し、数多くの学生、院生を育てられました。また、開発研究所長（2004年4月～2008年3月）、経済学部長（2010年4月～2012年3月）、大学院研究科長（2014年4月～2016年3月）を歴任され、大学運営に心を砕かれました。

先生は、北海道立の研究機関における研究員時代から北海道経済に対する深い問題関心を持たれ、北海道内の労働力市場や労働者の賃金分析、建設業を中心とする地域産業分析、さらには農山村調査などを通して北海道の主要産業についての研究成果を多く発表されております。主著『地域経済発展と労働市場』では、グローバルな普遍性と特殊性が歴史の中で交錯する中、それぞれの地域における具体性に着目し、日本資本主義の発展における北海道を研究の主要テーマに取り上げ、その歴史と未来について検討を進められております。また先生は、EU統合とその地域政策にも関心を深められ、北欧やイギリスを対象とした地域経済研究にも着手され、フィンランドなどへの実態調査の成果は、国際学会において報告し、国際的な研究交流にも力を注がれました。さらに先生は、こうした研究成果を、北海道の諸メディアを通して忌憚なく意見表明され、北海道の政策や世論形成へも貢献なさいました。

次に、笠嶋先生は、1999年4月に教授として着任され、今日に至るまでミクロ経済学の講義をご担当されるとともに、大学院においては理論経済学特殊講義、理論経済学特殊研究Ⅰをご担当し、教育と研究の両面にわたって多くの業績を残されました。また、国際交流の促進による本学の教育・研究の発展のためにご尽力なさいました。特に、学内のカナダ・コース委員会の委員を17年間の長きにわたってご担当されるとともに、各国大学との交流協定締結に向けた協定文書の起草や本学との橋渡しをなされました。

先生の代表的な研究としては、貿易協定が経済に及ぼす影響についての一般均衡モデルを用いての分析が挙げられます。その成果である「日豪自由貿易協定の経済効果と地域経済に及ぼす影響」(2009年)では、GTAPモデルと地域産業連関表を用い、日豪EPA/ETAの日本の経済と産業とりわけ地域産業に及ぼす影響を定量的に分析されました。また「世界経済の動学的応用一般均衡モデル——Dynamic GTAP Model——の理論構造」(2010年)では、GTAPモデルの動学版であるDynamic GTAPモデルを取り上げ、その理論構造を発表されております。先生は一連のご研究に最新の手法を積極的に取り入れることのみならず、その手法の未経験者への普及にも力を入れてこられました。先生は本学退職後はタイ国に拠点を移し、引き続き教育・研究を続けられるとお聞きしております。新天地におかれましても、学術研究の益々のご発展を祈念しております。

瀬川先生は1976年4月に本学教養部の専任講師として赴任され、その後、2001年には本学経済学部教授に就任され現在に至っております。先生はこの間、40年以上の長きにわたりドイツ語基礎Ⅰ～Ⅳ、ドイツ語文化演習Ⅰ・Ⅱを主にご担当され、本学におけるドイツ語教育の裾野を広げつつ、教育水準を高める活動にご尽力なさいました。さらに、外国文学Ⅰにおいては、先生の研究テーマの一つであるグリム童話を講読しながら、物語の構造を分析し、解釈するという授業展開を通して、ドイツ文学の基礎に触れる機会を学生に提供なさいました。さらに、「英語以外の外国語」科目の「世界の言語と文化」では、同科目の使用テキストのドイツ語部分も執筆され、ドイツ語およびドイツ文化を紹介なさいました。

先生の研究業績は大きく、「ペーター・ハントケ研究」「グリム童話研究」「ニーチェ哲学研究」に分けられます。先生の近年の研究テーマは「ニーチェ哲学の相反する思想について」ですが、先生はニーチェの哲学的思索において、相対主義的なパースペクティブ主義と、絶対的かつ普遍的真理である「力への意思」との矛盾、人間の自由意思を強調すると同時に「永劫回帰」という必然性をも強調する矛盾など、相反する要素が併存している点に着目し、その矛盾性、二律背反こそがニーチェ哲学の本質を形成しているとして、その矛盾性をニーチェ哲学の具体的思想を通して検討を加えております。

この他、瀬川先生は、1979年7月から1981年9月まで、ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生として旧西ドイツのボン大学に留学され、現地でのドイツ文学に関する研究成果を「70年代西ドイツ叙情詩について」として発表されております。

以上のように、北海学園大学在職中に大きな足跡を残され、本学経済学部を支えて下さった先生方が去られることに対し、惜別と感謝の念を禁じ得ません。先生方には今後とも北海学園大学を見守り、本学の発展に向けたご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。と同時に、先生方の今後のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、献辞といたします。



奥田 仁教授

奥田 仁教授 略歴・著作目録等

1. 学 歴

1967 年 3 月 東京教育大学付属駒場高等学校卒業
 1969 年 4 月 東京都立大学経済学部入学
 1974 年 3 月 東京都立大学経済学部卒業

2. 職 歴

1974 年 4 月 北海道農務部主事
 1977 年 4 月 北海道立総合経済研究所研究員
 1980 年 8 月 北海道経済調査室調査専門員
 1986 年 4 月 札幌大学経営学部非常勤講師
 1987 年 4 月 北海道経済調査室主任調査専門員
 1989 年 4 月 札幌学院大学経済学部非常勤講師
 1992 年 4 月 北海学園大学経済学部助教授
 1995 年 4 月 同 教授
 2004 年 4 月 北海学園大学開発研究所長（至 2008 年 3 月）
 2010 年 4 月 同 経済学部長（至 2012 年 3 月）
 2014 年 4 月 同 大学院経済学研究科長（至 2016 年 3 月）

3. 学 会

社会政策学会，日本地域経済学会，経済統計学会，北海道経済学会

4. 学 位

1974 年 3 月 東京都立大学 経済学士
 2002 年 3 月 北海道大学 博士（農学）

5. 業 績

〈著書〉

1. 単著

・『地域経済発展と労働市場』

2001. 7 日本経済評論社

2. 共編著

- ・神沼公三郎, 奥田仁, 佐藤信, 前田憲 編『北海道北部の地域社会』
2008. 5 筑波書房
- ・Hiroshi Okuda and Jarmo Kortelainen eds. “Russian Border Regions from the
Perspective of Two Neighbours”, 日本学術振興会二国間セミナー報告書
2008年2月 北海学園大学開発研究所

3. 共著(分担執筆)

- ・『地域の社会・経済構造』地域問題研究会編 1983. 5 大明堂
- ・『中小企業の経営戦略』日本中小企業学会編 1989. 4 同友館
- ・『北海道経済図説』松井安信他編 1990.12 北大図書刊行会
- ・『地域経済と中小企業』日本中小企業学会編 1991. 4 同友館
- ・『揺れ動く現代世界の経済政策』大沼盛男他編 1995. 6 日本経済評論社
- ・『農業雇用と地域労働市場』岩崎徹編 1997. 2 北海道大学図書刊行会
- ・『北海道産業史』大沼盛男編 2002.11 北海道大学図書刊行会
- ・『地域ルネッサンスとネットワーク』仲村政文他編
2005. 3 ミネルヴァ書房
- ・『ヨーロッパの森林管理』石井寛他編 2005. 2 日本林業調査会

4. 論文

- ・「北海道の賃金構造」 1978. 3 『北海道労働研究(北海道立総合経済研究所)』第123号
- ・「北海道の機械工業と賃金」 1979. 3 『北海道労働研究第』126号
- ・「女子労働と賃金」 1980. 3 『北海道労働研究第』129号
- ・「女子労働力化構造と男女格差」 1981. 3 『北海道経済調査(北海道経済調査室)』第1号
- ・「地域労働市場に関する調査」 1982. 3 『北海道経済調査』第2号
- ・「北海道機械工業の存立構造(Ⅰ)」(共著) 1982. 3 『北海道経済調査』第2号
- ・「北海道機械工業の存立構造(Ⅱ)」(共著) 1983. 3 『北海道経済調査』第3号
- ・「地場産業の相互関連調査(Ⅰ)」(共著) 1983. 3 『北海道経済調査』第3号
- ・「地域産業の相互関連調査(Ⅱ)」(共著) 1984. 3 『北海道経済調査』第4号
- ・「農山漁村の産業と就労実態に関する調査(Ⅰ)」(共著)
1985. 3 『北海道経済調査』第5号
- ・「農山漁村の産業と就労実態に関する調査(Ⅱ)」(共著)
1986. 3 『北海道経済調査』第6号
- ・「『建設産業』について」 1986. 3 『北海道経済調査』第6号
- ・「農山漁村の産業と就労実態に関する調査(Ⅲ)」(共著)
1987. 3 『北海道経済調査』第7号
- ・「中小ソフトウェア業・システムハウス業の経営と労働」
1988. 3 『北海道経済調査』第8号
- ・「北海道建設業の動向」 1989. 3 『北海道経済調査』第9号
- ・「北海道印刷業の経営と労働」 1990. 3 『北海道経済調査』第10号

- ・「離島の産業と経済 ― 奥尻島の事例 ― (Ⅰ)」 1990. 3 『北海道経済調査』 第 10 号
- ・「北海道家具工業の経営と労働 (Ⅰ)」 1991. 3 『北海道経済調査』 第 11 号
- ・「離島の産業と経済 ― 奥尻町の事例 ― (Ⅱ)」 1991. 3 『北海道経済調査』 第 11 号
- ・「北海道における工業資本展開の背景」 1992. 3 『北海道経済調査』 第 12 号
- ・「北海道家具工業の経営と労働 (Ⅱ)」 1992. 3 『北海道経済調査』 第 12 号
- ・「離島の産業と経済 ― 奥尻島の事例 ― (Ⅲ)」 1992. 3 『北海道経済調査』 第 12 号
- ・「戦後北海道人口動向の推移」 1993.12 北海学園大学『経済論集』 第 41 巻第 3 号
- ・「札幌圏自治体の人口労働力流動」 1996. 1 北海学園大学『開発論集』
- ・「北海道経済の到達点と課題」 1998.11 北海学園大学開発研究所
『北海道経済の視点・論点』
- ・「EU の地域政策」 1999. 3 『経済論集』 第 46 巻第 4 号
- ・「サハリン州の人口と労働力」 1999 年 3 月 竹田正直編『サハリン
州の総合研究文部省科
学研究費総合研究報告
集』 第 1 集 pp61-72
- ・「Labour Market and Economic Structure in Hokkaido」 2000. 3 『開発論集』 第 65 号
- ・「地域経済と建設産業 ― 北海道建設業の展開と特質 ―」 2000. 3 『開発論集』 第 65 号
- ・「サハリン州における小規模・零細経営の発展可能性」 2000. 3 『サハリン州の総合研究 (文
部省科学研究費総合研究報
告集)』 第 2 集
- ・「時代転換と地域発展の理論」 2001. 3 北海学園大学経済論集, 第
48 巻第 3, 4 号
- ・「有珠山噴火と虻田町の観光・雇用」 2003. 6 『開発論集』
- ・「シンポジウム『まちづくりと地域経済の再生』に寄せて」 2003. 3 日本地域経済学会『地域経
済学研究』 第 13 号
- ・「経済構造の転換と地域発展の組織」 2004. 3 日本地域経済学会『地域経
済学研究』 第 14 号
- ・「フィンランドの農村地域発展」 2005. 3 『開発論集』 第 75 号
- ・「“まちづくりと地域経済の再生” の論点をめぐって」 2005.11 中村剛治郎編『地域の力を
日本の活力に』全国信用金
庫協会
- ・「経済構造の転換と地域発展の組織」 2005.11 中村剛治郎編『地域の力を
日本の活力に』全国信用金
庫協会

- ・ 欧州における地域発展組織 ― イングランドと北欧の RDAs ―
2006. 3 高原一隆編『第三のイタリアの産地システムと地域活性化の国際比較』日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書
- ・ 「地域間格差と地域イノベーション」 2007. 3 『開発論集』第79号
- ・ 「内発的発展と地域内産業連関」 2008. 3 『開発論集』第81号
- ・ 「農村地域政策の課題」 2011. 3 『経済論集』第58巻4号

〈翻訳〉

- ・ Oddbjorn Bukve 「ノルウェーの地域政策と州自治体」
2002. 3 『開発論集』第69号

〈学会報告〉

- ・ 「地域労働市場の調査について」 1983. 2 日本社会政策学会北海道部会
- ・ 「地域における建設業」 1985.10 北海道経済学会
- ・ 「北海道のソフトウェア業・システムハウス業について」
1988.10 日本中小企業学会第8回全国大会
- ・ 「地域労働市場と中小企業」 1990.10 日本中小企業学会第10回全国大会
- ・ 'Labour Market and Economic Structure in Hokkaido, Japan'
1999. 9 Regional Studies Association, Univ. Bilbao Spain
- ・ 'The turning point of the regional development in Hokkaido'
2001. 8 16th International Seminar on Marginal Regions, Univ. Volda, Norway International Society for Study of Marginal Regions
- ・ 'Building New Local System and Sustenance of Population'
2003. 8 17th International Seminar on Marginal Regions, Univ. of Wales Aberystwyth.
- ・ 「経済構造の転換と地域発展の組織」 2003年9月20日 日本地域経済学会
北海学園大学

- ・ 'Peripherality and Regional Cooperation —
The Experience of Hokkaido Development and Sakhalin'
2007.10 Japan-Finland Bilateral Joint
Seminar, Hokkaigakuenn
Univ.



笠嶋修次教授

笠嶋修次教授 略歴・著作目録等

1. 学 歴

1967 年 3 月 福井県立敦賀高等学校 卒業
 1967 年 4 月 神戸大学経営学部 入学
 1971 年 3 月 神戸大学経営学部商学科 卒業
 1989 年 9 月 米国 Yale 大学経済学部附属 Economic Growth Center 修士課程 入学
 1990 年 5 月 同上 卒業 国際経済学・開発経済学修士 (MA in International and Development Economics)
 1990 年 9 月 米国 Wisconsin 大学 Madison 校大学院経済学研究科 入学
 1992 年 5 月 同上 経済学修士 (MS in Economics)
 1997 年 5 月 同上 卒業 経済学博士 (Ph.D. in Economics)

2. 職 歴

1971 年 4 月～1988 年 3 月
 中小企業金融公庫 (現 日本政策金融公庫)
 1975 年 4 月～1976 年 3 月
 日本貿易振興機構 (JETRO) New York Office 派遣 (研修生)
 1979 年 8 月～1981 年 7 月
 財団法人 国際開発センター派遣 (政府開発援助プロジェクト研究員)
 1985 年 1 月～1987 年 3 月
 国際協力事業団 (現 国際協力機構) 派遣専門家
 派遣先機関: タイ国工業省産業振興局
 専門家資格: 中小企業振興計画策定指導
 1997 年 8 月～1999 年 3 月
 タイ国 Thammasat (タマサート) 大学経済学部・同大学院 外国人特別講師
 1999 年 4 月～2017 年 3 月
 北海学園大学教授

3. 客員研究員・客員教授等経歴

2003 年 7 月～9 月 (豪州) Monash (モナッシュ) 大学経営学部附属 Center of Policy Studies 客員研究員
 2004 年 8 月～9 月 (タイ国) Thammasat (タマサート) 大学経済学部客員研究員

2006年8月～9月	(タイ国) タイ商工会議所大学付属 University of Chicago-UTCC Research Center 客員研究員
2009年8月～9月	(タイ国) Chulalongkorn (チュラロンコン) 大学経済学部客員研究員
2013年9月～12月	(カナダ) Lethbridge (レスブリッジ) 大学交換教授
2015年8月～9月	(タイ国) Kasetsart (カセサート) 大学経済学部客員研究員
2016年8月～9月	(タイ国) Kasetsart (カセサート) 大学経済学部客員研究員兼客員教授
2017年2月	(タイ国) Khon Kaen (コンケン) 大学経済学部客員教授

4. 所属学会

日本経済学会, 国際開発学会, 日本カナダ学会, American Economic Association

5. 業績

〈著書〉

- (単著) 『貿易利益を得るのは誰か——国際貿易論入門——』 2014年9月 日本経済評論社
 (共著) 『ミクロ経済学入門』 2011年5月 八千代出版

〈論文〉

- ・「世界経済の動学的応用一般均衡モデル——Dynamic GTAP Model——の理論構造」北海学園大学経済論集, 第57巻第4号, 2010年3月
- ・「日豪自由貿易協定の経済効果と地域経済に及ぼす影響——応用一般均衡モデルによる分析——」北海学園大学経済論集, 第56巻第4号, 2009年3月
- ・Kasajima, Shuji. 2009. “Forecasting GDP, sectoral output, and trade structure of Malaysia from year 2004 to year 2020, using a Dynamic Applied General Equilibrium Model”. Research Monograph, Ministry of International Trade and Industry, the Malaysian Government.
- ・「数値解析手法によるマクロ経済動学分析」北海学園大学経済論集, 第50巻第4号, 2003年3月
- ・Kasajima, Shuji. 2003. “ORANI-G model of the Japanese economy”. COPS Archive No. TPMH0045, Center of Policy Studies, Monash University.
- ・Kasajima, Shuji. 2002. “Nominal anchor exchange rate policy and equilibrium real exchange rate: the case of Thai baht before the currency crisis”. The Journal of Economics, Vol. 50, No. 3: 37-100, Hokkai-Gakuen University.
- ・Kasajima, Shuji and Sukanda, Lewis. 2001. “Equilibrium real exchange rate, real exchange rate misalignment and the current account: an econometric analysis of Thailand’s experiences”. In *Restructuring Asian Economies for the New Millennium*, edited by Jere Behrmann, Manoranjan, Dutta, Steven Husted, Pitayanon Sumalee, and Chirthivat Suthipand. Amsterdam, The Nederland: Elsevier Science B.V.

- ・ Kasajima, Shuji. 1999. "Exchange rate regime, real exchange rate misalignment, and the current account: an intertemporal approach". *The Journal of Economics*, Vol. 47, No. 3: 59-87, Hokkai-Gakuen University.
- ・ Kasajima, Shuji. 1998. "Economies of scale, the rates of technical progress, and the government's industrial policy in Thailand". In *Future Challenges for the Economic Recovery of Thailand*, edited by Yuko, Amano. OECF Research Papers No. 28, RIDA, Overseas Economic Cooperation Fund.
- ・ Kasajima, Shuji. 1986. "Comment on Overview of Thai-Japanese Trade and Investment Relations by Dr. Surachai Pattanajidvilai". In Phongpaichit, Pasuk, Busaba Kunasirin and Buddhagarn Rutchatorn eds. *The Lion and the Mouse? — Japan, Asia and Thailand*. Bangkok: Chulalongkorn University Press.

Ph.D. dissertation

- ・ Kasajima, Shuji. 1997. *Externalities, Increasing Return to Scale, Factor Proportions and Foreign Direct Investment*. Ph.D. dissertation, University of Wisconsin at Madison.

〈研究報告書等〉

- ・ 「タイの中小工業の構造的特質と問題点」 黒田朗・笠嶋修次・木幡健一（著）『タイの中小工業』1989年4月，バンコク日本人商工会議所
- ・ 「ASEAN 諸国の中小企業金融政策と中小企業金融制度」 小川正道・笠嶋修次・渡辺荘逸（著）『ASEAN 諸国の中小企業とその育成をめぐる課題』1988年3月，（財）中小企業調査協会
- ・ Kasajima, Shuji and Akira Kuroda. 1988. *Small and Medium Scale Industries in Thailand*. Japan International Cooperation Agency.
- ・ 「タイの中小企業振興をどうして進めるか」1986年11月『第2回経済シンポジウム 中小企業発展の条件を探る』，バンコク日本人商工会議所所報
- ・ Kasajima, Shuji and Yutaka Shimizu eds. 1981. *A Study of the Development of Manufacturing Industries in Mexico: Mainly Focusing on the Casting, Forging and Metal Machining Industries*, International Development Center of Japan: Research Paper submitted to the Ministry of International Trade and Industry of the Japanese Government.
- ・ Kasajima, Shuji and Yutaka Shimizu eds. 1980. *Industrial Development in Thailand: the Small-and-Medium Scale Industries*, International Development Center of Japan: Research Paper submitted to the Ministry of International Trade and Industry of the Japanese Government.
- ・ Hideshima, Keiichiro, Shuji Kasajima and Hiroshi Ebine. 1981. "Energy Productivity and Industrial Structure", Research Monograph, International Development Center of Japan.
- ・ 「米国における企業金融の変化と商業銀行の動向（上）」1976年12月『中小企業金融公庫月報』Vol.23, No.4.
- ・ 「米国における企業金融の変化と商業銀行の動向（下）」1977年1月『中小企業金融公庫月報』Vol.24, No.1.



瀬川修二教授

瀬川修二教授 略歴・著作目録等

1. 学 歴

1967 年 3 月 北海道小樽桜陽高等学校卒業
 1967 年 4 月 北海道大学文類入学
 1972 年 3 月 北海道大学文学部文学科卒業
 1972 年 4 月 北海道大学大学院文学研究科独文学専攻修士課程入学
 1974 年 3 月 北海道大学大学院文学研究科独文学専攻修士課程修了
 1974 年 4 月 北海道大学大学院文学研究科独文学専攻博士課程入学
 1976 年 3 月 北海道大学大学院文学研究科独文学専攻博士課程単位取得満期退学

2. 職 歴

1976 年 4 月～1984 年 3 月 北海学園大学旧教養部講師
 1979 年 7 月～1981 年 9 月 ドイツ学術交流会（DAAD）の奨学生として旧西ドイツボン大学に留学
 1984 年 4 月～1996 年 3 月 北海学園大学旧教養部助教授
 1996 年 4 月～1998 年 3 月 北海学園大学旧教養部教授
 1998 年 4 月～2001 年 3 月 北海学園大学旧共通教育・研究センター教授
 2001 年 4 月～現在に至る 北海学園大学経済学部教授

3. 所 属 学 会

日本独文学会，北海道ドイツ文学会

4. 学 位

1972 年 3 月 北海道大学 文学士
 1974 年 3 月 北海道大学 文学修士

5. 研 究 業 績

〈著書〉

・ トーマス・ベルンハルトの世界 1984 年 1 月 東洋出版「ドイツ文学論集」小栗浩教授退官記念

- ・ドイツ, フランス, 中国, ロシア, 韓国・朝鮮とその周辺地域の言語と文化
2013年4月 共同文化社

〈論文〉

- ・現代小説と虚構性 1976年2月 北海道大学文学部独語独文学科研究年報第2号
- ・ペーター・ハントケの初期小説とその理論的意図について 1978年10月 北海学園大学「学園論集」第33号
- ・70年代西ドイツ抒情詩について 1984年12月 北海学園大学「学園論集」第49号
- ・風景作家としてのペーター・ハントケ 1991年7月 北海学園大学「学園論集」第69号
- ・ペーター・ハントケの『充実日試論』について 1993年12月 北海道大学文学部独語独文学科研究年報第20号青柳謙二教授退官記念
- ・もう一つの歴史——ペーター・ハントケにおける平和存在について—— 1995年3月 北海学園大学「学園論集」第83号
- ・20世紀ドイツ文学における言語の主題化——ペーター・ハントケの場合—— 1999年3月 北海学園大学「学園論集」第99号
- ・新しい人生の再構築——ペーター・ハントケ『真の感情の時』について—— 2002年3月 北海学園大学「学園論集」第111号
- ・ゲーテの『親和力』について——自然, 人生, 愛の形成とその挫折—— 2004年12月 北海学園大学「学園論集」第122号
- ・ペーター・ハントケ『森の「あれあれ」を運ぶルーシー』(1999年)について 2007年9月 北海学園大学「学園論集」第133号
- ・ニーチェ哲学の相反する思想について 2013年12月 北海学園大学「学園論集」第158号

〈学会発表〉

- ・ペーター・ハントケの『望みなき不幸』について 1986年9月 日本独文学会秋季研究発表会
- ・化学用語としての「親和力」 1988年12月 北海道ドイツ文学会
- ・グリム童話「しあわせハンス」(KHM83)の幸福幻想について 2008年7月 北海道ドイツ文学会